『地域共創学会誌』，vol.9，77-95，2022
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, *Journal of Collaborative Regional Development* vol.9, 77-95, 2022

【資料】

江戸時代朝鮮通信使関連文書所収朝鮮語集覧（一）
―書誌解題・翻刻篇―

石　川　泰　成

要　約

本集覧は，江戸時代に刊行，書写された朝鮮通信使関連の通俗書，古文書に見える朝鮮語と看做していたものを集めた。またこれら朝鮮通信使関連刊行物，古文書の朝鮮語とされるものの取材源となった節用集や往来物，重宝記，行列記なども採録した。本集覧は，本号で刊行物，古文書の書誌解題と翻刻を収め，次回では日本語・朝鮮語の語彙別索引を収める。
Keyword：朝鮮通信使，朝鮮人言葉，唐人言葉，節用禍

1．語彙の採録の範囲と本集覧について

本集覧には，江戸時代に刊行，書写された朝鮮通信使関連の通俗書，古文書に見える朝鮮人言葉，朝鮮人言葉（唐人言葉）とするものを集めた。またこれら朝鮮通信使関連刊行物，古文書の朝鮮語とされるものの取材源となった節用集や往来物，重宝記，行列記なども採録した。本集覧は，上篇で，刊行物，古文書の翻刻を収め，下篇では語彙別の索引とする。この集覧は，朝鮮通信使研究者が，各種刊本，写本の『朝鮮人行列記』類の系統，とくに無刊記本の刊行年や書写年代を探る上で有用だと思う。このほか今後各地の朝鮮通信使に関する地方文書などに朝鮮人言葉，唐人言葉などを載せるものがあれば，その語彙の取材源が比定するのに一つの指標を示すものとなろう。先行文献に箕輪吉次慶熙大学校教授の「朝鮮通信使の行列と行列記」（「日語日文学研究」第72輯，韓国日語日文学会，2010年），「江戸時代通俗書における朝鮮語仮名書き」（「日語日文学研究」第76輯，韓国日語日文学会，2011年）があり精緻な考証を加えている。筆者の本集覧は，新たに幾種かの文献を加えただけの余涎にしか過ぎない。

本集覧を縦覧すると，当時の人々が，節用集や重宝記などの往来物，通俗書などから朝鮮語も中国語（唐話，黄檗唐語など）も未分化な認識しかなかった時代から，しだいに朝鮮語は朝鮮語として認識しようとした時代の過程も窺える。たとえ記載の「朝鮮詞」なるものが相当に怪しく，あるいは全くの似非朝鮮語であったとしても，朝鮮，朝鮮語を認識しようとしたその姿勢は，日本人の対朝鮮認識の変化という意味で大きな意義を持つ。この観点から筆者は，「朝鮮通信使関連刊行物の朝鮮人言葉を通じてみた朝鮮の表象」（市川桃子ほか編『石川忠久先生星寿記念論集』pp．495-524，汲古書院，2021）を著した。この論文ではさらに朝鮮通信使関連刊行物の中に，宝暦（明和）度（1764），文化度（1811）前後になると，朝鮮に対する日

本優越論を浸透させる意図を持つものが出現することも指摘しておいた。ご参照いただければ幸いである。いわば本号集覧は，この論文を書くため採集した語彙箚記であったが，鶏肋の思いから公刊した。

本来であれば，日本の文人たちが朝鮮通信使と直接交流し書き留めた筆談集にみえる朝鮮語やハングルなども採録すべきであるが，これについては別に稿を改めて専集としたい。通俗的刊行物やその再写にみえる「唐人詞」，「朝鮮詞」とは性質を異にすると考えたからである。当然のことながら文人たちの筆談・唱和集に収めるハングル，朝鮮人言葉などは，対馬の通詞あるいは通信使の使員と直接交流した内容と思われる語彙が多い。

本集覧は，中国学専攻の筆者が慣れぬ日本の崩し字，変体仮名を翻刻したものであり，読み間違いなど過誤もあるかと思う。諸賢の批正を乞う次第である。

2．凡例

一、本稿は，朝鮮言葉と題するものを集録した。原書では朝鮮言葉と題しつつ実は唐語のものも収録する。また唐人言葉と題しつつ朝鮮語彙あるいは疑似朝鮮語のものも採録している。

二、採録した刊行物，古文書は刊行，書写の時代順に配列し，無刊記，奥書のないものなどは使行の年度別推定できるものについてはその使行年度に配置した。

三、朝鮮通信使関連の刊行物でないものであっても，その取材源となった，『男重宝記』，『和漢三才図会』，『節用集』，『陰徳記』，『朝鮮物語』も採録対象とした。

四、収載された語彙にナンバリングを筆者により行っている。また翻刻に際し一部句読点を付している。繰り返し記号，踊り字は開いている。

五、表記について　条々の見出し「一」は頁数の制約から省略した。翻訳語に当たる語彙の前に空格一字を開けている。

3．採録書誌略解題

3.1．天和度（1682年）

№1『朝鮮人筆談並贈答詩』（無刊記，東京都立図書館，特別買上文庫，中山文庫）

1682年（天和二年）八月六日，江戸本誓寺において，木下順庵，黒川玄達らが朝鮮通信使，製述官成翠虚，訳官洪滄浪らと詩文の応酬したものを収める。その末尾に版元が付したと思われる付録に「一唐人口通事並朝鮮言葉阿蘭陀言葉一黄檗山通事言葉」と朝鮮語を収めるとするが，それらしきものは一単語のみ。後世の語彙採集の祖形が本書に現れている点に注目される。

№2『男重宝記』（元禄6年（1693年）刊，艸田子三径〔苗村丈伯〕，大和屋勘七良刊）

ここでは『男重宝記』（近世文学資料類聚　参考文献編17，勉誠社，1981年）を底本とし，

『新板増補　男重宝記』（吉野家藤兵衛刊，宝永頃後印，九州産業大学図書館所蔵）を参考にした。翻刻にあたっては長友千代治校註『男重宝記』（現代教養文庫）を利用した。本書は，「唐人世話言葉」としているが，これ以降出版された節用集や朝鮮人行列記などの「朝鮮語語彙」とするものの取材源となっている。

3.2．正徳度（1711年）

№3『朝鮮人行列[記]』（正徳元（1711）年刊，国会図書館所蔵）

刊記に「正徳元辛卯年　八月中旬　書林　板行」とあるも版元名は記載されていない。

横本のスタイル。図入り「行列記」刊行の最も早いものと思われる。これ以後朝鮮通信使の行列記の類は本書を祖本とし，一部図版や文字を変えて出版している。

その多くは単語の対訳だが，一部，簡単な文も載せる。「但しくわしくは庚顔世語にあり」と典拠もしくは参考文献を掲げているが，未詳。

№4『宝林節用字海大成』（刊本，正徳2（1712）年，須原屋茂（兵?）衛刊，静岡大学図書館・九州産業大学図書館所蔵）

本書は節用集で，前年に来日した通信使一行の行列図を巻頭に載せている。ここでは静岡大学図書館本を底本とした。各種行列記や全国各地の手書きの古文書「朝鮮人行列」が，本書を根拠としているものも多く，当時の節用集の影響の大きさが窺い知れる。

№5『和漢三才図会』（正徳2（1712）年序刊，寺島良安，国会図書館デジタルアーカイブ347コマ～349コマ）

江戸時代博物学の成果として有名な本書には，巻13「異国人物」に朝鮮国の記事があり，その「朝鮮国語」に記載されている語彙を集録した。ただし漢字に付されている振り仮名のみ採り，朝鮮語を漢字で音注した記述は省略した。『大船用文』に掲げる朝鮮言葉は，本書に拠っている。

№6『陰徳記』（正徳2（1712）年刊，香川正矩，マツノ書店，1996年）

毛利氏の中国地方制覇から秀吉の死後，秀頼に仕えるまでの歴史を記した書。世によく流布した『陰徳太平記』は，香川正矩の息，宣阿の著作で内容が少し異なる。ここに採録した「高麗之詞」は『陰徳太平記』では削られている。後世の通信使関連の刊行物の朝鮮語語彙が，この『陰徳記』を参考にしているのもある。

ここでは米原正義氏の校訂，翻刻により，1996年にマツノ書店から出版された『陰徳記』拠った（下巻，664頁～669頁）。文中の割注や添え書きで示されたものも採録している。

3.3．寛延（延享）度（1748年）

№7『朝鮮人来朝物語』（外題：朝鮮人大行列記，刊本，延享5年（1748）年正月，京都，菊屋七郎兵衛板，京都大学図書館）

正徳版を踏襲した行列記。

№8「朝鮮国来聘之信使行列並諸大名御馳走場所付」（延享5（1748）年写，九州産業大学図書館所蔵）

本書は，延享5（1748）年に来日した朝鮮通信使の基本情報を記した古文書。採録の語彙は先行の行列記，節用集の抄写に係るもの。

№9瓦版「朝鮮人湊入　上」「ちやうせんじんぎようれつの次第　下」（刊行年，版元不明，九州産業大学図書館所蔵）

二枚一組の瓦版。刊行年は無刊記で不明であるが，「朝鮮人湊入　上」の図版に，船の停泊地の接待役の大名が記されており，この接待役大名リストから延享度のものと推定した。

№10『朝鮮物語』（木村理右衛門，寛延3（1750）年刊，藤木久市，山城屋茂左衛門刊）

本書は，巻五に「朝鮮の国語」として三百余の語彙を載せる。ここに翻刻したテキストは，京都大学文学部国語学国文学研究室編『木村理右衛門　朝鮮物語』（京都大学国文学会　昭和45年（1970），208頁～223頁）に拠った。

3.4．宝暦（明和）度（1764年）

№11『朝鮮人大行列記』（表紙題『宝暦三年　朝鮮人行列之次第』，福山市鞆の浦歴史民俗資料館所蔵）

福山市鞆の浦は，朝鮮通信使が来日した際，寄港，宿泊する地であった。福禅寺はじめ，商家などに通信使，対馬藩，接待役の藩士などが分宿した。本書は宿を提供する商家などが，刊本の『朝鮮人大行列記』から記事を抄写した備忘録か。ここでは『朝鮮通信使と福山藩・鞆の津　その二』（116頁～117頁）の翻刻を使用した。

№12『大船用文三韓蔵』（北尾辰宣作・画，宝暦13（1763）年刊，［大阪］田原屋平兵衛ほか）

本書はいわゆる往来物であるが，書簡例から成人向けに作成されていることがわかる。本書は安永年間に後印本が出されたが，「朝鮮人の言葉づくし」に当たる箇所は除かれている。ここでは，北村欽哉『寺子屋で学んだ朝鮮通信使――大船用文三韓蔵』（平成29年，羽衣出版）の影印を用いた。

№13『宝暦物語』（作者未詳，国会図書館所蔵）

本書は，宝暦（明和）度に来日した朝鮮通信使の往復の出来事を書き留めた和文の行程記。作者は未詳。この宝暦度は，通信使使員崔天宗が殺されるという殺害事件があり，本書でも最大の読ませどころとなっている。朝鮮語は巻一に載せている語彙を採録した。このほか，石阪孝二郎『朝鮮信使来朝帰帆官録』（昭和44年11月，荒木書店発行）に収録されている翻刻（537頁）を参考にした。

№14『朝鮮人来聘行列』（宝暦13（1763）年刊，天理大学図書館所蔵）

天理大学図書館を底本とし，朴賛基氏の「黒本『朝鮮人行烈』について」（『叢　草双紙の翻

刻と研究』第13号，近世文学研究「叢」の会，平成2年，87頁～89頁）に一部翻刻されたものを利用したため，一部語彙が採録できていない。

№15『朝鮮人行烈』（明和2年？，大東急記念文庫蔵）

本書に収める朝鮮語は，朴賛基氏の「黒本『朝鮮人行烈』について」（『叢　草双紙の翻刻と研究』第13号，近世文学研究「叢」の会，平成2年，87頁～89頁）に影印を収め，かつ朴賛基氏が翻刻を載せているのに依ったため，一部語彙が採録できていない。

№16『延享宝暦度度朝鮮人来聘記』（作者未詳，呉市入船山記念館所蔵）

ここでは『広島藩・朝鮮通信使来聘記』（呉市安芸郡下穂刈町，平成2年3月刊）に載せる本文影印及び翻刻（648頁～650頁）を用いた。

頼祺一氏の解説によれば，延享5年刊『朝鮮人大行列記』から取材したり，その際ほかのソースから増補した（76頁）ものという。

3.5．文化度（1811年）及びそれ以降

№17『文化八年羊年五月中旬朝鮮人来聘人数』（作者未詳，九州産業大学図書館蔵）

文化年度は対馬での易地聘礼となり，通信使一行は江戸に来ることがなかった。本書は手抄の古文書である。本書に収録された朝鮮語は，従来のものと系統が異なる。

№18『三韓平治往来』（十返舎一九作・序，歌川国安，歌川国丸画，文政8年（1825）刊，江戸，山口屋藤兵衛板）

本書は往来物の刊行物であるが，書名が示す通り，十返舎一九が朝鮮に対する日本の優位性を児童教育にまで及ぼそうとしている内容となっている。ここに載せる朝鮮語は，『和漢三才図会』に拠っている。

4．朝鮮語集覧（翻刻篇）

4.1．天和度（1682年）

№1『朝鮮人筆談並贈答詩』（無刊記，東京都立図書館，特別買上文庫，中山文庫）

「一唐人口通事並朝鮮言葉阿蘭陀言葉一黄檗山通事言葉」

1師父尊号叫甚麽（スフキャンハウケウシンモフ）　キサ□ヲンナヲバナニトカモウスゾト云コトナリ／2直目不相見（ジキジフシヤケン）　此中（コノチウ）ハヒサシクヲンメカヽラズト云コトナリマタスウト云／3好来（ハウライ）トハ　能（ヨク）ゴザツタト云コトナリ／4這裡来（チエリ）トハ　コヽエコイト云コトナリ　コヽエキタレ云コトナリ／5汝歇在那裏（ニヘツサイナリ）トハ　ソナタハドコニゴザルゾト云コトナリ／6久不曾来看（キウフチエンライカン）トハ　ヒサシクコヽエゴザラント云コトナリ／7那裏行（ナリキン）トハ　ドコウエユクソト云コトナリ／8有事行（ユウスウキン）トハ　用（ヨウ）アリテユクナリ有事（ユウス）ハ用アルナリ／9這裏持来（チエリタウライ）　コヽエモチテコイト云コトナリ／10曾寫字（フイセイツウ）　モノカクコトナリ／11不曾寫字（ズ）（フフイセイ）　モノカカヌ人ノコトナリ／12汝喫酒（ニキチウヤ）麽　ソナタハサケノムカト云コトナリ／13喫酒（キチウ）　酒（サケ）

ノムコトヲ云ナリ／14喫飯　メシヲクウコトナリ／15喫茶　茶ヲノムコト／16打齊　御トキノコトナリ／17僧家　出家ノコトナリ　フ（マ）リトモ云朝鮮コトバナリ／18俗家　俗人ノコトナリ／19頭目　侍ノコトナリ／20本将　大将コトナリ／21来往　ユキヽスルコトナリ一　五音相通歯音舌音有口傳／22今日トハ　ケフトイウコトナリ／23病好麽　気相ハヨイカト云コトトナリ／24困了ラウ　苦労シテクタヒレタルト云コトナリクルシムト云コトナリ／25睡了リヤウ　寝ルコトナリ又ネフルコトナリ／26有病　ワヅライアルト云コトナリ／27冷行　コトノホカノサムサナリキツウサムイナント云コトナリ／28熱行　ツヨウアツイト云ナリコトノホカノアツサナリ／29好行　ヨイト云事テキンハ付字助語字ナリ／30起来了ラウヲキヨト云コト又ヲキテコイトモ云コトナリ／31洗浴　又　洗澡　上下共ギヤウズイスルナリ湯アブルコトナリ／32醫生セン　醫者ノコトナリ／33下頭　中間下部小者ノコトナリ／34百姓　百姓ノコトナリ／35男子　ヲノコノコトナリ／36女人　ヲンナノコトナリ／37畜生チクシヤウト云コト（ナ脱？）リ／38水魚　ウヲノコトナリ／39鳥　トリノコトナリ／40烏鴉　カラスノコトナリ／41蠟燭　ラウソクノコトナリ／42菓子　クワシノコトナリ／43菜湯汁ノコトナリ／44醤油　シヤウユノコトナリ／45酢　酢ノコトナリ／46サイハツ／47餅粿ダンゴノルイ皆ヒンゴト云ナリ／48素麺　ソウメンノコトナリ／49豆腐　トウフノコトナリ／50松菰　松茸ノコトナリ／51蘿蔔（草＋浮）　大根ノコトナリ／52菁菜　萬ノ野菜ノコトナリ又ソエテ食菜ナリ／53紙　カミノコトナリ／54屏風ヘンホン　ビヤウブノコトナリ／55石硯　スヽリノコトナリ／56吹煙管スイエンクワン　キセルノコトナリ／57煙草　タバコノコト（ナ脱？）リ

№2『男重宝記』（元禄6年（1693年）刊，苗村丈伯，大和屋勘七良刊）

「男重宝記巻之五　唐人世話言葉」

1若衆をば　童子といふ　又少年と云／2よき若衆を　好童子といふ／3悪しき若衆を　不好童子といふ／4みにくき若衆を　醜童子といふ／5女を　女人といふ／6よき女を　好女人と云又好新婦共／7みにくき女を　醜女人といふ／8娘を女子といふ／9よき娘といふ事を　好女子といふ／10悪しき娘といふ事を　不好女子といふ／11和尚を　和尚といふ／12長老を　長老といふ／13弟子を弟子といふ／14老僧といふ事を　老僧といふ／15小僧といふを　小僧といふ／16上人といふ事を　上々人といふ／17隠し所を　辟処といふ／18あほうといふ事を大鈍といふ／19くそくらへといふ事を　糞照といふ／20いやしき育ちといふ事を　鉄長といふ／21雪隠の事を　闇寮といふ／22飯まいれといふ事を　喫飯といふ／23茶まいれといふ事を　喫茶といふ／24もはや帰るといふことを　向帰といふ／25なぐさみに歩く事を　経行といふ／26苦しいといふ事を　苦辛といふ／27草臥たといふ事を　労といふ／28おゝきといふ事を　多といふ／29すくなきといふ事を　少といふ／30むさいといふ事　不浄々々といふ／31

きれいなといふ事を　清浄好といふ／32やすむ事を　頤神といふ／33茶もてこいといふ事を茶将来といふ／34下々のものといふ事を　下々人といふ／35うえもないよいといふことを上々好といふ／36尼の事を　尼僧といふ／37女の客を　女人客といふ／38よい客を　上人客といふ／39乞食を　乞食といふ／40年よりたる女を　老母　老婦といふ／41穢多を　外人といふ／42直段たかき事を　貴といふ／43同やすき事を　賤といふ／44寺を出る事を　参下といふ／45小判一両を　中金一枚といふ／46金子一歩を　小金一片といふ／47銀子一匁を銀子一銭といふ／48銭百文一貫を　銅銭百銭一貫といふ／49一二三四五六七八九十を一二三四五六七八九十と云／50一匁一分一リンを　一銭一分一厘といふ／51十百千万億を十百千万億といふ／52唐の一両といふ事を　唐山一両といふ　十匁なり／53日本の一両といふ事を　日本一両といふ　四匁三分なり／54一合一升一石を　一合一升一石といふ／55一寸一尺一丈を　一寸一尺一丈といふ／56銀子十枚といふ事を　銀子十枚といふ／57頭巾を　頭巾といふ／58帽子を　帽子といふ／59ふとんを　蒲団といふ／60手ぬぐひを　拭手巾といふ／61襦袢を　汗衫といふ／62夜着を　布被といふ／63ふすまを　紙衾といふ／64風呂敷を袱子といふ／65ほつすを　払子といふ／66しゆじやうを　拄杖といふ／67焼香するを　焼香といふ／68香炉を　香炉といふ／69手炉を　手炉といふ／70火燵を　地炉といふ／71火鉢を瓦炉といふ／72茶わんを　茶碗といふ／73茶びんを　茶瓶といふ／74御器を　食器といふ／75膳　単といふ／76飯台を　卓子といふ／77飯つぎを　行単といふ／78箸を　箸子といふ／79机を　几子といふ／80筆を　尖頭といふ／81すゞりを　石硯といふ　一面／82すみを　よきすみを珍墨といふ　あしきすみを臭墨といふ／83水滴を　水瓶といふ／84紙を　紙といふ／85らつそくを　蠟燭といふ／86ちやうちんを　挑燈といふ／87手たらいを　盥盆といふ／88足たらいを　浴盆といふ／89わら草履を　草鞋といふ／90竹の皮草履を　竹鞋といふ／91せきだを　革履といふ／92ぼくりを　木履／93くわしを　菓子といふ／94さけを　酒といふ／95もちを　白糕といふ　又餅とも／96たばこを　煙草といふ／97手習ひする事を　学書といふ／98物よみすることを　読書といふ／99ずゞを　珠数といふ

4.2．正徳度（1711年）

№3『朝鮮人行列[記]』（刊本，正徳元（1711）年，国会図書館所蔵，横本）

1おんわきさしを　はんと云／2ふよと云が　ものこひなり／3ゆの事を　ふりといふ／4かんちうらいと云ことは　ものをのめといふことなり／5てるもとは　子ともの事／6ちこをみてはるていと云／7わかしゆをみれは　しよとうといふ／8女をみては　かくせいと云／9よいと云事を　ちつこといふ／10しほを　えんきやと云／11おかべとは　せんとうの事／12あふらを　おくつとよといふ／13水を　わあとろ／14すてぎといふが　もちのこと／15しゆばとはみそのことを云／16めしくうことを　ちやほんと云／17ちうせいとは　酒の事／18さけを

おさめといふ事を　ちうしれと申すかし／19えんことといふが　たばこなり／20はんかいひつを　かといふ／21おさむといふか　主人なり／22さるみといふが　下人なり／23ゆうらいといふことは　うれしいといふ事なり／24なんりうは　とまれなり／25ござれといふを　らいらい／26おちゃといふが　久しやといふ事なり／27ぶつじんおがむを　はいといふ／28白銀を　かあるといふ／29てんたいかとは　今の事／30しやんとは　銭を申なり／31また銭よむを　一もんを□つといふ／32のふとは　二文／33三文を　さあといふ／34四もんを　すい／35五文を　こう／36六文を　らくといふ／37でつが　七文／38ほいは　八文／39九文を　かう／40十文を　つわすうとそ申なり／41さてまたわか女ほうを　きたうといふ／42わかをつとをばふうしといふ／43しといふことは　はあねのこと／44またいもふとを　はまいといふ／45をんなのきやふを　へいしつといふ

№4『宝林節用字海大成』（刊本，正徳2（1712）年）

1おのこ衆をば　童子と云　又少年といふ／2よき若しゆを　好童子といふ／3あしき若衆を不好童子といふ／4見にくき若衆を　醜童子／5女をば　女人といふ／6よき女をば　好女人と云　又好新婦と云／7見にくき女をば　醜女人といふ／8むすめを　女子といふ／9よきむすめを　好女子といふ／10あしきむすめを　不好女子と云ふ／11和尚をば　和尚といふ／12長らうをば　長老といふ／13弟子をば　弟子といふ／14老僧と云事を　老僧といふ／15小僧と云事を　小僧といふ／16上人といふ事を　上ゝ人といふ／17下ゝのものを　下ゝ人／18かくし所をば　□處といふ／19あほうをば　大鈍といふ／20糞□　人と云をば　糞照といふ／21賤きそたちをば　鐵長といふ／22雪隠の事をば　闇寮といふ／23飯まいれと云を　喫飯といふ／24茶まいれと云を　喫茶といふ／25もはやかへると云を　回帰といふ／26慰に行んのを　経行といふ／27苦為と云事を　苦辛といふ／28□たし云を　労といふ／29おほきと云を多といふ／30すくなきと云を少といふ／31むさいといふを　不浄といふ／32奇麗なと云を　清浄好といふ／33やすむことを　頤神という／34茶もてこいを　茶持来といふ／35下丶のものを下丶人といふ／36上々吉と云を　上丶好といふ／37尼のことをば　尼僧といふ／38女の客をば　女人客といふ／39よい客をば　上人客といふ／40乞食をば　乞食といふ／41年寄たる女を老母　老婦といふ／42穢多を　外人といふ／43値段高きを　貴といふ／44同下値を　銭といふ／45寺を出ることを　参下といふ／46小判一両を　中金一板といふ／47金子一分を　小金一片といふ／48銀子一匁を　銀子一銭といふ／49銭百文一貫を　銅銭百銭一貫と云／50一二　三　四　五　六　七　八　九　十　を云／51一匁一分一りんを　一銭一分一厘と云／52十百千万億を　十百千万億といふ／53唐の一両と云を　唐山一両といふ　十匁なり／54日本の一両を　日本一両といふ　四匁三分なり／55一壱合一升一石を　一合一升一石といふ／56一寸一尺一丈を　一寸一尺一丈といふ／57銀子十枚と云を　銀子十板といふ／58頭巾を

頭巾といふ／59帽子を　帽子といふ／60ふとんを　蒲団といふ／61てぬぐひを　拭手巾といふ／62襦袢を　汗衫といふ／63夜着を　布被といふ／64ふすまを　紙衾といふ／65風呂敷を　袱子といふ／66ほつすを　払子といふ／67しゆししやうを　指杖といふ／68焼香するを　焼香といふ／69香炉を　香炉といふ／70手炉を　手炉といふ／71火燵を　地炉といふ／72火鉢を　瓦炉といふ／73茶わんを　茶碗といふ／74茶ひんを　茶瓶といふ／75ごきを　食器といふ／76膳を　単といふ／77飯台を　卓子といふ／78飯つぎを　行単といふ／79箸を　箸子といふ／80つくえを　几子といふ／81筆を　尖頭といふ　一枝／82すずりを　石硯といふ　一面／83墨を　よきすみをば　珍墨と云／84あしきすみを　臭墨と云／85水滴を　水瓶といふ／86紙を　帋といふ／87らうそくを　蠟燭といふ／88ちやうちんを　提燈／89手だらいを　盥盆／90足だらいを　浴盆／91わらざうりを　草鞋といふ／92竹のかわ草りを　竹鞋といふ／93せきだを　革履といふ／94ぼくりを　木履といふ／95くわしを　菓子といふ／96さけを　酒といふ／97もちを　白糕といふ　又餅とも云／98たばこを　煙草といふ／99てならひをするを　学業といふ／100学文するを　読書といふ／101念珠を　珠数といふ

№5『和漢三才図会』（刊本，正徳2（1712）年序刊，寺島良安）

1天／2知／3日／4月／5星／6雲／7風／8雨／9雪／10霜／11露／12雷／13氷／14山／15坂／16海／17川／18波／19水／20火／21土／22木／23草／24松／25竹／26梅／27菊／28葱／29人参／30煙草／31麦／32米／33大豆／34小豆／35飯／36酒／37塩／38未醤／39薬／40寺／41船／42家／43筵／44升／45筆／46墨／47杖／48扇子／49笠／50弓／51矢／52茶碗／53銀／54酒杯／55紙／56仏／57僧／58士／59農夫／60男／61女／62君／63臣／64父／65母／66親／67子／68兄／69弟／70商人／71牛／72馬／73犬／74虎／75猫／76鶴／77鷹／78鳧／79鶏／80鳥／81鳩／82魚／83鯉／84烏賊／85鮒／86海鰛／87鯛／88大口魚／89蛇／90蚊／91衣服／92紗綾／93綸子／94紬／95糸／96木綿／97綿／98灯／99湯／100一／101二／102三／103四／104五／105六／106七／107八／108九／109十／110百／111千／112万

№6『陰徳記』（正徳2（1712）年刊，香川正矩）

1王ト云コト　シヤンガム／2位ノ高キ人　ト云コト　トツフンワイヒ　トモ　トクソンニムトモ／3殿　ヲンムニ／4屋形　レンカム／5主　マノライ／6ヒクワン但内ノ者モ同ジ　チヨグノム／7百姓　ハキシヤン／8ヲノレ　ヲレサナナ／9我　サナイ／10父　アビ／11母　ヲミ／12子　アトリ／13女子　スタリ／14兄　セギ　又　サロン　トモ云／15弟　トグソキ／16僧　チギ　又　チウキ　トモ／17若衆　チモンサルミ／18老人　ツルグミ／19若　チンタ／20名　イリホミ／21目　ヅウン／22鼻　コウ／23鼻ノ穴　コリトウ／24唇　ヱフ／25歯　ヂ／26舌　セイ／27耳　タイ／28髪　ボリ／29睫　ヅウンソブ／30鬢　ダルカウ／31手　ソン／32大指　ヲムジソンカラ／33人サシ指　チツグワラ／34中指　チフソンカラ／35無名指　チ

グソンカラ／36小指　サキソンカラ／37腕　クビハルトウ／38足　ヒヤラ／39身　ボン／40頸　ボソ／41腹　ハイ／42馬　モリ　トモ　バラ　トモ／43犬　カイ／44犬ノ子　カガチ／45猫　コイ／46鼠　スイ／47鴉　カマクイ／48鷹　マイ／49鶴　ツル／50白鳥　コニ／51雉子　スコグ／52鶏　トリキ／53雁　キレイ／54水鳥　ヲリキ／55豹　ヒヨワツ／56鹿　トツコキ／57狐　チヨツコ／58水牛　スホリ／59鹿皮　タンボイ／60狸ノ皮　オサンダラビ／61大魚　ハガイコキ／62鯛　トムコキ／63王余魚　ドブチ／64一鱈　タイコセ　ガイテガイトモ／65生魚　ゾグセン／66干魚　モロムコキ／67鱠　ホイ／68硯　ビヤロ／69筆　ブツ／70墨　ボク／71紙　チヤキルカルカ／72鑓　サンク／73脇指　シヨクンカル／74小刀　テツカル／75弓　ハル／76矢　サル／77鉄炮　チグド／78笠　カツ／79蓑　ヅミヤキ／80杖　マクタイ／81傘　ウサン／82袴　バツチ／83手巾　シユクワン／84帯　ステイ／85段子　モタン／86襦子　ビタン／87綿子　メンゾ／88木綿　モンメヤン／89白糸　シル／90一銭　トン／91屏風　ベンボク／92温席　トクセキ／93舟　バイ　小舟　サンバイ／94櫓　ドル／95櫓ヲセ　トルセヤハ／96入物　クルス／97平包　ヲスボ／98鍋　ソツ／99油　キリミ／100蜜　スコル／101御座　シケトスシケラ／102鞍　シケキリマシケラ／103黄金　クムソイ／104白金　フインソイ／105銅　トグテリ／106蝋　ダブ／107鍮赤　テウセキ／108戸　チカイ／109蝋燭　ビソ／110物ノ本　クルバル／111枕　ビヤカイ／112炭　スフ／113マヱテフノ　ツサゴ／114木切テウノ　トツゾイ／115細工槌　バンマテイ／116ノミ　クル／117寐入　ツアラ／118是ヨメ　イロフルヲ／119シバル　バケ／120何ニ行カ　ウツキルカルカ／121物洗　シツカ／122カヂ　タチヨン／123物ヲ削ル　カルツロキ／124人ニ物ヲヤル　ツキ／125腹フトクナル　ハイホロカ／126腹細キ　ハイコツハイ／127御名ハ何ト申ソ　イリホム／128可助此地へ越セ　サルケクハニイヱヲラ／129ワルイカ　アニスコブルカ／130畏レ　アンサシラ／131近ク寄レ　ヱスラ／132物アルカ　イノヌカ／133シツナヤツ　クワシムタ／134イナセウゾホナイソヨ／135イナセヨ　ホナイチマルラ／136ヲヱト云コト　チシヤ／137聞　ツカラ／138夜　ハムイ／139晩　ホソルマイ／140朝　イリ／141昼　ナスイ／142誓言ノコト　ナムサンコムサン／143正直ニイヱ　コツチサチルラ／144起ヨト云コト　チルカラ／145キキトモナキト云コト　ツチスルタ／146カシマシイ　ツツツルタ／147音モセテ居ヨ　ソンソクシシラ／148ナ云ソ　チリチマルラ／149カシコ　イロロ／150爰　ヱクイ／151イノフカ／152居ラウカ　イシルカ／153買フ　サチヤ／154売レ　ハイラ／155ナ追ソ　ストト／156止レ　ヱサカラ　又　イリクラ　トモ／157寒イ　ヂブラ　チブヌカ　トモ／158衣キヨ　ヂブラ／159衣脱ケ　ヲスハシケラ／160捨ヨ　ハリラ／161物ヲ問コト　コサムスキラ／162綺麗ナコトコブタ　チヨツタ　トモ／163ムサイコト　トロブタ／164飢ルコト　ハイクルタ　我ヒタルキコト　ハイクルハイカ　人ノヒタル（キ脱？）カト云コト／165見事　コブタ／166細　シ

ヨクタ　シヨカ　トモ云／167知タカ　アノンガア／168草履持コヨ　シンカチヨウラ／169トリヲケ　カンジヨハイトラ／170居ヨ　イシラ／171イネ　チガラ／172無イ　ヲフスン／173牛買フ　シヨウサニヤ／174道ハカウ行カ　イクキルリルカ／175シキ物　トクセキ／176人過分ニ死タ　サリミマニツヂタ／177山ニ隠テ居者皆下リ居ヨ　ボイスマイイノン　又　サルミノリヲラ／178山ヨリサガレ　ボイフツタカノリヲラ／179皆サガレ　タツワラ／180笛吹カチヨフルカ／181草刈ニ行　モルスコルフイヲラ／182爰ニコヨ　ヱクイイラヲラ／183打テト云コト　マイスタラ／184アレヲ打テ　イノムマイスタラ／185食クヱ　ハヒムカラ　モクチヤ　トモ　一是　イリ／186アレコイ　イノムイナラヲラ／187走ル　トツカラ　トツヲラトモ／188己　ドイ／189□（鵜？）取テコヨ　コキサハワラ／190ドコノ者ソ　ヲツイサルミン／191火タケ　フリタイラ／192火消セ　フリスナラ／193油トボセ　キリンミフリセイラ／194ハケ　フイスラハラ／195馬ニ草飼　モルスコロムケラ／196水クメ　ブリキラコラ／197湯クメ　シユンクノムスタワラ／198太キ　ソシクタ　クタ　ト計モ／199拳モテ打　一チヂヤ／200見ラレヌ　コフタ／201其所ニヲケ　ヱライノワラ／202執テ行　カテカラ／203イヤカ　マルカ／204ヲウカ　コレハルカ／205残ス　セキアザラ／206多　マンタ／207気相悪カモウミアニスコブルカ／208己憎キ族　ドイクワツシノム／209止ヨ　マララ／210是ハ何ソコサムスキラ／211恥シキ　フスコロブタ　又　フスコルバ　トモ／212ヲカシキ　スブタ／213煩　ヘギハノム　ヘンチヤギハノン　トモ／214食セヨ　ハヒハイラ／215汁セヨ　カギハイラ／216キタナクスルナ　トロブタケマイラ／217能洗ヘ　チヨヱシサラ／218高声シソ　ノグダイメンマラ／219細工人カ　チヤグサルミカ／220中カ　コリス　又　ヲネウ　トモ／221髪結ヘ　ホリバヘラ／222能来　チヨヱハスタ／223馬引テコヨ　バロサバラ／224物書カ　クルスルカ／225暑カ　トブヌカ／226此在所ハ如何　ヱムスリムスキラ／227恐シイカ　ムセブルカ／228菜食ノサイ　ハスセス／229精進カ　コツクノリカ／230出家カ　チラギ／231何スル物ソ　ムスキスルカ／232詞　マル／233腰ニサセ　レイラ／234カタグ　ホヤワラ／235拝メ　リンベルラ／236心得テ被下ヨ　クチウヲフスレンマノニ／237何ニアルゾドコノ者ゾヲトマイイノンカ／238日本ヨリ朝鮮八道皆シキタリ　イルホンフツタカ朝鮮ハルトタジキタ／239カタガタハ何ニ御座有ソ　サナイヲツイケイヲヒシンタ／240己助ヘシ其方帰　ドイサルケラハニイヂカラ／241コチヘコヨ　ヱヲラ／242ソロソロコヨ　カマニニヲラ／243ハヤマカリ帰ル　ナイカムヲイ／244眠ナ　イリハチマラ／245己朝鮮人使ニ可遣此返事取来レ引物ヲ執スベシ　トイ朝鮮サルミソソムイホライリヨク　フサムカチフライシヤコハリヨボライリヨ／246歌ヲ謡ヘ　ドロカヱブルラ／247舞　ツウンチラ／248屎（くそ）セウカ　ストンハルカ／249尿セウカ　シヨマハルカ／250美キ女連テコヨ　コブンカクセイトボラヲラ／251一上此方ヘ御座レイラヲビシシヤ／252　中同　イラヲラソ／253下　同　イラヲラ／254アチヘ行ケ　ヲイカラ／

255連タチテ行ン　トボラカチヤ／256アソコヘ行　チヨロカラ／257尋テ見ヨ　ムラボラ／258嬉イ　我キスブタ　人キスフニカ／259腹立　セキナイノン／260持来レ　カチウラ／261商ノコト　フクゼキ／262商セウ　ハチヤ／263連テコイ　トボラヲラ／264談合　ウイノン／265知人　ヲレサコンサルミ／266我知タ人　アノンサルミ／267早能カ　ハマチヨツタ／268物ノ熟シタコト　ヂクニ／269早シタカ　ハマハノンガ／270未ダ　タグセリ／271ウツクシコブタ／272能モ無　サマラブタ／273悪キ　チヨツタニタ／274能事　チヨツタ／275イサカイスルナ　サウミ　又　サウミマルラ　トモ／276痛イ　アルバア／277痛モ無　アルブチヤニタ／278草伏　アセルバ／279物書コト　クルスララ／280ノケト云コト　ヲイラ／281能ソヲケ　カマニトラ　又　ハリヤトラ　トモ／282人ヲ切コト　ブツハイラ／283衣キルコト　ヂバテツテイラ／284衣脱コト　ハサテンドウハラ／285閙（さわがし）　バスフタ／286トラユル　サハラ／287取レタカ　サツヘイ／288物ヲ下知スルコト　ギヨシウハイラ／289催促ノコト　ソツソクワイラ／290教ヨ　カラチラ／291今日　ヲノル／292明日　ノイロ／293明後日　モロイ／294明々後日　クルホイ／295一日　ハライ／296二日　イツツル／297三日　サル／298四日　ナル／299五日　タツセイ／300六日　エツサイ／301七日　ヂルコブナル／302八日　エトロフナル／303九日　アホヲナル／304十日　エルナル／305廿日　スムルナル／306卅日　セリホンナル／307四十日　マスンナル／308五十日　スインナル／309六十日　エシユンナル／310七十日　チリホンナル／311八十日　エトンナル／312九十日　アホンナル／313百日　イリヒヤクナル／314壱月　ハンダライ／315弐月　ツウタライ／316三月　ソクタライ／317四月　ドクタライ／318五月　タスタライ／319六月　エスタライ／320七月　ヂルコブタライ／321八月　エトロブタライ／322九月　アホブタライ／323十月　エルタライ／324恐敷モ無　ムセブチヤニタ／325上ノコト　ウフイ／326下ノコト　アライ／327大事　アスカフニ／328大事ノ物　アスフニコシ／329殿ニ申セ　ヲニムエツリラ／330披露申セ　クワラクワラハイラ／331頼存ル心得テ下サレヨ　アルヲラ／332物ヲ云ウ　チルイシヤ／333物ヲ云エ　ヂルラ／334物ヲハケト云コト　チララ／335物ヲ進レ　サブリ／336聞召セ　セヲフソ／337クレヨツワラ／338トレ　ト云コト　バタラ／339取テヲケ　カムサトラ／340カンヲセヨ　酒ノコトスフリトベラ／341猶ノマセヨ　ストハイラ／342イヤ　マタタ／343御意アル程ニ　ヂルラホラヒシニ／344クワフンニ御座アル　クケ／345笑　ウスウヌ／346ヲレハイヤ　ラブスキタマノニナイサンマタ／347早ク申セ　スビアロウフ／348持テヲレ　イロカテイシラ／349持テ行カツテヂカラ／350其持テコイ　イロカテヲラ／351ヲノレクビ切　トイモクハイコチヤ／352一能者　ヲチンノウ／353魂性ワルキ者　ハキシムサワラブタ／354心　カコチヤン／355イニ度カ　イシルカ／356セウカト云コト　ハルカ／357何トセウカ　ヲシテハルカ／358迷惑　ミンマキタ／359卒土謡ヘ　チヨコマンフラ／360年ハイクツカ　ナイメツチゴ／361子ヲ持タカ

ソセキイノヌカ／362兄弟アルカ　トグソキイノヌカ／363父カ有カ　アビイスタ／364母アルカ　ヲミイスタ／365カクセ　カンシユハイラ／366云ト云コト　チルヲ／367人　サルミ

4.3．寛延（延享）度（1748年）

№7『朝鮮人来朝物語』（外題：朝鮮人大行列記）

1たんごを　えんつといふ／2もちを　ひんといふ／3さけを　ちうといふ／4くわしを　こつといふ／5めしくふを　ちやふんといふ／6ぜんを　たんといふ／7ゆを　ふりといふ／8火をぶりといふ／9きれいなことを　ちゆんちゆんといふ／10ちやをまいれを　きいさといふ／11みづを　わあとろといふ／12ごきを　しいさといふ／13みそを　しゆんといふ／14さけのむ事を　かんちうといふ／15よきわかしゆを　ほとんへといふ／16よきおんなを　ほしよしん／17むすめを　にゐつうと云／18長らうを　ちやんろと云／19なくさみにゆくを　きんひんといふ／20くたひれを　らうてきん／21大き事を　とてきんと云／22すくなき事を　しゆうてきん／23とまりを　なんりう／24やすみを　いひしんといふ／25ちやもつてこいを　さちらいといふ／26ちやわんを　さはんといふ／27ふでを　せんとうといふ／28すずりを　しへんといふ／29すみを　ちんほといふ／30かみを　つうといふ／31つきんを　てうきんと云／32ほうしを　ほつゝうと云

№8「朝鮮国来聘之信使行列並諸大名御馳走場所付」（写，延享5年（1748年））

1たはこを　ゑんつと言／2餅を　ひんと言／3酒を　ちうと言／4食しを　こッと言／5食□ふ（卓？）を　ちやふんと言／6膳を　たんと言／7湯を　ふっと言／8火を　ぶりと言／9きれいなことを　ちやんちやんと言／10茶を　きいさと言／11水を　わめとろと言／12ごきをしいさと言／13みそを　しや（ゆ？）んと言／14酒呑を　かんちうらいと言／15好き若衆をはふとんつと言／16能き女を　ふしよしんと言／17娘を　にゐつうと言／18長老を　ちやんろと言／19慰行を　きんひんと言／20草臥（くたびれ）を　らうてきんと言／21大きなことを　とてきんと言／22すくなきことを　しやうてきんと言／23とまりを　るんりうと言／24やすみを　いひしんと言／25茶わんを　さはんと言／26筆を　せんとうと言／27硯を　しへんと言／28墨をちんふと言／29かみを　つうと言／30頭巾を　てうきんと言／31ぼうしを　ほつゝうと言

№9瓦版「朝鮮人湊入　上」「ちやうせんじんぎようれつの次第　下」（刊，無刊記）

（上）1―6（下）7―24

1海ヲ　ばたぐ／2ふねヲ　ばいと云／3かぜヲ　ばらミ／4はしヲ　たり／5山ヲ　もゑ／6日よりよく候と云を　なりちよつそと云／7わが婦かとゆふを　びをんだと云／8もちを　へゑつうと云／9めしを　はびと云／10しるを　りぐと云／11さいを　ばんざん／12みそを　ちやぎト云／13しやうゆを　ちゆ□やぐ／14すを　ずと云／15塩を　そくむと云／16ちやを　ざと云／17たばこを　たんばこと云／18老人を　づるくん　さらむと云／19若き人　と云を

でむん　ざらむと云／20男子を　そんあべト云／21女子を　かんあべ／22むすめを　すたろ／23酒を　すりと云／24さかなを　あんじと

№10『朝鮮物語』（写本，寛延3年（1750年），木村理右衛門）

1日本ヲ　ゐるほん／2朝鮮ヲ　ちよせん／3都ヲ　せおり／4江戸ヲ　かぐほ／5大坂ヲ　だいはん／6国ヲ　なうい／7天ヲ　はのる／8地ヲ　たぐ／9星ヲ　びよる／10風ヲ　ばらみ／11雨ヲ　び／12暁ヲ　べくめく／13旦ヲ　あつつむ／14明ヲ　あつむ／15山ヲ　もい／16峰ヲ　ぼぐ／17浜ヲ　はいずん／18江ヲ　かぐ／19波ヲ　むるける／20泉ヲ　しよん／21池ヲ　ぱとく／22橋ヲ　そり／23林ヲ　すぶ／24島ヲ　せむ／25日ヲ　ゐる／26月ヲ　おる／27雲ヲ　くるむ／28雪ヲ　ぬん／29霜ヲ　そる／30露ヲ　をる／31雷ヲ　はのるうんた／32氷ヲ　をろん／33坂ヲ　こかい／34海ヲ　はたく／35川ヲ　かぐ／36水ヲ　ふり／37火ヲ　ぷる／38土ヲ　ふる／39木ヲ　なん／40草ヲ　そ／41松ヲ　そよなん／42竹ヲ　たい／43梅ヲ　まばい／44菊ヲ　くくは／45葱ヲ　ぱ／46人参ヲ　いんそん／47煙草ヲ　たんばこ／48麦ヲ　ぽを／49米ヲ　ひさり／50大豆ヲ　こぐ／51小豆ヲ　ぱつ／52飯ヲ　はび／53酒ヲ　すり／54塩を　そくむ／55味噌ヲ　ちやぎ／56薬ヲ　やく／57樹ヲ　なむ／58田ヲ　のん／59畑ヲ　はつ／60台ヲ　でで／61所ヲ　こい／62里ヲ　もうる／63町ヲ　もうる゛／64市ヲ　てさい／65寺ヲ　てらい／66堂ヲ　たぐ／67宮ヲ　くぐ／68館ヲ　どくさん／69舟ヲ　ぱい／70家ヲ　ちぶ／71莚ヲ　ざり／72壁ヲ　ぱらんぴよく／73戸ヲ　もん／74障子ヲ　あくい／75春ヲ　ぼん／76夏ヲ　によろみ／77秋ヲ　こおる／78冬ヲ　けをる／79東ヲ　とくばく／80西ヲ　せばく／81南ヲ　なんばく／82北ヲ　ぽつぱぐ／83青ヲ　ぶるた／84黄ヲ　ぬるた／85赤ヲ　ぶるくた／86白ヲ　ふいた／87黒ヲ　こむた／88上ヲ　うほい／89下ヲ　あほい／90内ヲ　かをんだい／91外ヲ　はつこ／92右ヲ　をろんべん／93左ヲ　をいんべん／94長ヲ　きうた／95短ヲ　ちへつた／96強ヲ　かぐはた／97弱ヲ　やくはく／98善ヲ　ちよつた／99悪ヲ　さうぶた／100賢ヲ　をちた／101愚ヲ　をりた／102売ヲ　さちや／103買ヲ　はるか／104神ヲ　くいしん／105仏ヲ　ぶつ／106帝ヲ　いんくん／107王ヲ　わぐ／108朝臣ヲ　むんしん／109武臣ヲ　はぱぐ／110男ヲ　そんなへ／111女ヲ　かんなへ／112人ヲ　さるみ／113父ヲ　あはみ／114母ヲ　おいみ／115兄ヲ　せぎ／116弟ヲ　あじ／117兄弟ヲ　とぐそき／118妻ヲ　けちび／119嫁ヲ　めのり／120孫ヲ　そんづ／121親ヲ　おばい／122子ヲ　あとる／123君ヲ　くん／124臣ヲ　ちよぐのん／125牧使ヲ　ちよほう／126僧ヲ　ちゆぐ／127士ヲ　りつたい／128農夫ヲ　ぱきせぐ／129職人ヲ　いん／130商人ヲ　ちやくそ／131主ヲ　ちよいん／132亭主ヲ　ちよゆん／133舛ヲ　しうてい／134筆ヲ　ぶつ／135墨ヲ　もく／136杖ヲ　なむたい／137扇ヲ　ぶつそい／138笠ヲ　うさん／139茶碗ヲ　ちゆぐばり／140酒杯ヲ　さん／141紙ヲ　ちよほい／142笛ヲ　でよ／143琴ヲ　こん／144笙ヲ　しよ／145城ヲ　せぐ／

146鎧ヲ　ちよ／147甲ヲ　かぶ／148弓ヲ　くい／149矢ヲ　さつ／150旗ヲ　くゐ／151鎗ヲ　さぐ／152長刀ヲ　おんをなたう／153楯ヲ　すはん／154鉄砲ヲ　ちよにく／155俵ヲ　せみ／156帯ヲ　すて／157煙筒ヲ　たい／158錦ヲ　ぬく／159金襴ヲ　くむなん／160綾ヲ　にゆつく／161段子ヲ　たいたん／162縮緬ヲ　すとん／163糸ヲ　びる／164綿ヲ　くん／165衣服ヲ　をす／166綸子ヲ　ずく／167紬ヲ　めぐぢゆ／168木綿ヲ　むめぐ／169尺ヲ　ざあ／170丈ヲ　ちやく／171灯火ヲ　とぐ／172湯ヲ　とほんぶり／173食湯ヲ　じゆくのみ／174肴ヲ　あんしゆ／175醤油ヲ　じりやく／176酢ヲ　こくた／177焼酒ヲ　やくちう／178計ヲ　やく／179餅ヲ　すてぎ／180汁ヲ　くく／181喰ヲ　むくれ／182豆腐ヲ　たうふ／183胡椒ヲ　ふうてう／184芥子ヲ　けいも／185菜ヲ　ばんざん／186金ヲ　くん／187銀ヲ　うん／188銅ヲ　とく／189錫ヲ　なぶ／190桜ヲ　すほんなん／191柳ヲ　ほどなん／192牡丹ヲ　もうん／193百合ヲ　なりい／194蓮ヲ　によん／195水仙ヲ　しゆせん／196眼ヲ　ぬん／197貌ヲ　をるくる／198耳ヲ　らず／199足ヲ　たり／200牛ヲ　しよう／201馬ヲ　もる／202犬ヲ　かい／203鷹ヲ　まい／204鶴ヲ　つるみ／205白鳥ヲ　からに／206雁ヲ　けおり／207鴨ヲ　ちやれき／208雉子ヲ　そくち／209雲雀ヲ　さい／210鶯ヲ　こいつくり／211鴻ヲ　はぐさいし／212鷺ヲ　の／213虎ヲ　ほん／214羊ヲ　ぱん／215狼ヲ　いるつ／216兎ヲ　とらあん／217猫ヲ　こい／218鳥ヲ　とり／219鶏ヲ　とるき／220鳩ヲ　いふち／221魚ヲ　こき／222鯛ヲ　とんこき／223鯉ヲ　わがい／224鮒ヲ　ふがい／225烏賊ヲ　をそがい／226鯨ヲ　こうらいこき／227鮑ヲ　さぎを／228蛤ヲ　ぱん／229蛇ヲ　さんむすい／230蚊ヲ　ぽる／231朝ヲ　せにき／232昼ヲ　でみしん／233晩ヲ　あじき／234日月ノ入ヲ　ていら／235今日ヲ　おのる／236明日ヲ　ないる／237明後日ヲ　もろい／238毎日ヲ　なるまつた／239平生ヲ　しやくしん／240此方ヲ　さない／241私ヲ　ない／242位ヲ　ひよずり／243寝ヲ　つばみそ／244草臥ヲ　せりた／245養生ヲ　ちよふれい／246休ヲ　すへた／247教ヲ　まろちた／248学ヲ　はいはた／249読ヲ　にくた／250見ヲ　ほちや／251勤ヲ　ぷつかんぱた／252功ヲ　こぐ／253孝行ヲ　ひよた／254詞ヲ　まり／255理ヲ　でへばり／256語ヲ　ぱいん／257改ヲ　すほん／258委ヲ　ぴつさかしこ／259尋ヲ　むらぼた／260別ヲ　すたてつた／261平ヲ　そろ／262洗ヲ　しつこはいら／263押ヲ　すけら／264捨ヲ　ぱれら／265誑ヲ　そくだ／266開ヲ　ゑつた／267知ヲ　もろつた／268少ヲ　ちやくた／269遣ヲ　つはら／270慰ヲ　のるた／271下知ヲ　くいゆる／272全義ヲ　さあぐ／273交替ヲ　きよてい／274相詰ヲ　しやくしきはた／275慇懃ヲ　くんきんはた／276案内ヲ　ちよつたん／277久敷ヲ　べなん／278左様ヲ　これはそ／279暇乞ヲ　はぢぎ／280早帰ヲ　をせかから／281埒明ヲ　けるはんはた／282何用ヲ　もうしが／283得物ヲ　おす／284爰ニ置ヲ　よけそつとり／285虚言ヲ　かうへんまる／286一ヲ　はな／287二ヲ　とをる／288三ヲ　さをい／289四ヲ

どをい／290五ヲ　たそ／291六ヲ　よこく／292七ヲ　じりこぶ／293八ヲ　よとろう／294九ヲ　あほう／295十ヲ　ゑく／296百ヲ　ばいく／297千ヲ　でん／298万ヲ　すね

4.4．宝暦（明和）度（1764年）

№11『朝鮮人大行列記』（写本，『宝暦三年　朝鮮人行列之次第』）

1多葉粉を　ゑんつと云／2餅を　ひんと云／3酒を　ちうと云／4くわしを　こつと云／5食を　ちやんと云／6膳を　たんと云／7湯を　ぶりと云／8きれいなを　ちせん／9茶を吸をきいさ／10水を　わあとろ／11ごきを　しいさ／12みそを　しゆは／13酒呑事　かんちうき／14美女を　ほしよん／15むすめを　にゐつミ／16遊行を　きんひん／17大きな事　とてきんミ／18とまり　なんりう／19やすミを　ひんしん／20茶碗　さはん／21筆を　せんとう／22洗を　しへん／23紙　つう／24きゆ　とうきん／25ほうし　ほつこう／26善を　ちんほ

№12『大船用文三韓蔵』（刊本，宝暦13年（1763）刊，北尾辰宣作・画）

1若衆を　童子又少年といふ／2よきわかしゆを　好童子といふ／3あしきを　不好童子と云／4女を　女人といふ／5よき女を　好女人又好新婦と云／6みにくきを　醜にいじんと云／7むすめを　女子といふ／8よきむすめを　好女子といふ／9和尚を　和尚といふ／10長老を長老といふ／11弟子を　弟子といふ／12老僧を　老僧といふ／13小僧を　小僧といふ／14香炉を　香炉といふ／15火燵を　地炉といふ／16火鉢を　尾炉といふ／17ちゃわんを　茶碗といふ／18茶瓶を　茶瓶といふ／19椀を　食器といふ／20膳を　単といふ／21飯台を　卓子といふ／22飯つぎを　行単といふ／23箸を　箸子といふ／24机を　几子といふ／25筆を尖頭　一枝といふ／26すずりを　石硯一面といふ／27墨のよきを　珍墨といふ／28同あしきを　臭墨といふ／29水いれを　水瓶といふ／30紙を　帋といふ／31上々吉を　上々好といふ／32下々のものを　下々人といふ／33尼を　尼僧といふ／34女の客を　女人客といふ／35よき客を　上人客といふ／36乞食を　乞食といふ／37年長たる女を　老母又老婦といふ／38値段高きを　貴といふ／39同下値を　賤といふ／40寺を出るを　参下といふ

№13『宝暦物語』（写本，作者未詳）

1茶　ツ／2酒　チウ／3水　シュイ／4肴　カウ／5菓子　コヲツ／6煙草　エンソウ／7烟管エンクハン／8好女　ハウニイ／9悪女　チユウニイ／10好男　ハウナン／11妓女　クイニイ／12若衆　シヤウトン／13老人　ラウイン

№14『朝鮮人来聘行列』（刊本，宝暦13（1763）年刊，作者未詳）

1若衆を童子又少年といふ／2よきわかしゆを好童子といふ／3あしきを不好童子といふ／4女を女人といふ／5よき女をば好女人と云又好新婦と云／6みにくき女をば醜にいじんと云／7むすめを女子といふ／8よきむすめを好女子といふ／9和尚を和尚といふ／10長老を長老といふ／11弟子を弟子といふ／12老僧を老僧といふ／13小僧を小僧といふ／14香炉を　香炉といふ／

15火燵を　地炉といふ／16火鉢を　尾炉といふ／17ちゃわんを　茶碗といふ／18茶瓶を　茶瓶といふ／19椀を　食器といふ／20膳を　単といふ／21飯台を　卓子といふ／22飯つぎを　行単といふ／23箸を　箸子といふ／24机を　几子といふ／25筆を　尖頭　一枝といふ／26すずりを　石硯一面といふ／27墨のよきを　珍墨といふ／28同あしきを　臭墨といふ／29水いれを水瓶といふ／30紙を　帋といふ／31上々吉を　上々好といふ／32下々のものを　下々人といふ／33乞食を　乞食といふ／34年長たる女を　老母又老婦といふ／35値段高きを　貴といふ／36同下値を　賤といふ／37寺を出るを　参下といふ／38かくし所を　辟□といふ

№15『朝鮮人行烈』（刊本，明和2年ごろ，黒本）

1おんなをは　にいじんといふ／2よき女をは　ほうにい人といふ／3見にくき女をは　しうにい人といふ／4むすめをは　にいつうといふ／5あしき娘を　ふほう　にいつうといふ／6ちやうらうをは　ちやんらうといふ／7でしをは　ていつうといふ／8らうそうをは　らうすゑんといふ／9小ぞうをは　しやうすゑんといふ／10しやうにんをは　しやんしやんじんといふ／11かくし所をは　へいちんといふ／12あほうをば　大鈍といふ／13くそくらへといふを　糞照といふ／14賤きそだちをば　賤長といふ／15飯まいれを　喫飯といふ／16尼を　尼僧といふ／17女の客を　女人客といふ／18よき客を　上人客といふ／19乞食をば　乞食といふ／20年寄たる女を　老母　老婦といふ／21値段高きを　貴きんといふ／22同やすきを　銭といふ／23寺を出ることを　参下といふ／24小判壱両を　中金一板といふ／25金子一分を　小金一片とい／26銀子一匁を　銀子いいちゑんといふ　同　壱□を一分といふ／27銭百文一貫を銅銭百銭一貫と云／28苦労を　苦痛といふ／29すくなきとを　少といふ／30むさいといふを不浄不浄といふ／31きれいなことを　清浄好といふ／32くわしを　菓子といふ／33さけを酒といふ／34もちを　白糕又餅といふ／35くたひれを　労きんといふ／36煙草を　煙草といふ／37茶もてこいを　茶拿来といふ／38ちやわんを　茶碗といふ／39膳を　たんといふ／40筆を　せんとう　いいち□といふ／41すずりを　しへん一面といふ／42すみのよきを　ちんほうといふ

№16『延享宝暦度度朝鮮人来聘記』（写本，作者未詳）

1上々官ハ　バンス／2上官ハ　ハキセメイン／3次上官　アンハンス／4中官ハ　ハギトクシン／5下官ノ上　ヲバンス／6下官　クンクハン／7下官　フクヽハン／8下々官　ハイサル／9三官船水主／10同下　アライサル／11公方様ハ　テンチウセウクン／12対馬守殿ハ　タイヤツセウクン／13同御家老　ヲシヤクハン／14来許ハ　ヲハイ□ヲタチ／15侍ハ　シヤクハン／16対馬へ渡ルヲ　ニウクハンチウテン／17壱番振舞ハ　サレイ／18二番振舞ハ　ナカイハテ／19三番振舞ハ　レイヽハチ／20餅ハ　ステキ／21大根ハ　フスイ／22茄子ハ　タクチ／23唐カラシ　カチ／24肴ハ　コキ／25茶ハ　チャン／26天目ハ　ウネヤル共ウネモン／27こちこ

いとは　ナライ／28廻りこいとは　ヲナライ／29女ハ　カクセイ／30オトコハ　ア□□／31カカハ　ヲユミ／32年寄ハ　ヲリボン／33むす子ハ　アトリ／34娘ハ　スタリ／35かやハカク／36馬ハ　モリタ／37着物ハ　ハジ／38油ハ　ヲリン／39銀銭ハ　トン／40屋敷ハ　タイマツカル／41宿ハ　タイテキ／42米ハ　ビザ□□／43味噌ハ　チヤギ／44酒ハ　スリ又チウ共／45醤油ハ　ナカヤリチウ／46喰事ハ　ムクリ／47火ハ　トリ／48水ハ　ブリ／49湯ハシヤクノミ／50塩ハ　ソクミ／51たはこハ　タンバコ／52きせるハ　エンタイ／53惣竹の類タアイ／54物持こいとハ　カラヤウナテイ／55買物是ハ何程とハ　モウシカ／56船ハ　バイ／57テンマハ　サンバ／58赤ハ　マヤブサウ／59物をくゑとハ　バヒムカウ／60酒ヲ大分給とハ　ヤクチウヤンニスタ／61合点したとハ　ヲリタ／62能事ハ　チヨタ／63悪事ハ　サヤウブタ／64万売物ハ　サラハ／65人をしかる事ハ　フシムカウ／66正路致事ハ　ケンポン／67こじきとハ　ヲランハチ／68馬のふんくへとハ　モリソウムカウ／69人のかうべとハ　モカチ／70脇差とハ　セウトウ／71銀銭共壱分ハ　ステラ／72二分ハ　ハラン／73三分ハ　テンシヤウナウ／74四分ハ　フキボウ／75五分ハ　ゲンサイ／76六分ハ　カタハウ／77七分ハヨシバウ／78八分ハ　メタバウ／79九分ハ　タケバウ／80壱匁ハ　ソクバウ／81児小姓ハセウトウ／82通詞とハ　トクソ／83ろくにおれとハ　ヘイハイホウクソ／84能女ハ　チヨツタイカクセイ／85刀ハ　トウ／86大ふんの事ハ　マンニタ／87茶碗ハ　チンバリ／88かれらハみともないとハ　マナイヤクシユ／89いやいふ事ハ　アニアニ／90けびたやつと云ハ　サマラゾタ／91是を切らふと云ハ　モカチハウリヤ□□／92きせるたはこハ　タバンコデイ／93物をくれと云ハ　ホナイラ／94こはんを　チウキン／95壱歩を　シヤウサン／96銀を　インヅ／97銭を　トン／98手掛を　シチウキン／99夜着を　フヒイ／100風呂敷を　フツ／101ごきを　シイキ／102はしを　チヨツウ／103茶碗を　ツハハント云／104筆を　センテウ／105墨を　ホト云／106硯を　シヘン／107あほうを　タイドン／108若衆を　トンツウ／109娘を　ニイツウ／110頭巾を　テウキン／111まうすを　モウツ／112寺を　シンヒヤ／113直段安きをラヱンテキン／114上々吉を　シヤンシヤンカウ／115寺之和尚を　ポシュン／116長老を　チヤンロウ／117上人を　シヤンシヤンシン／118弟子を　テイツウ／119おおき事を　トテキン／120すくなきを　シヤウテキン／121やすむを　イヒシン／122紙を　ツウ／123なくさみをキン／124くるしいを　タウシン／125こつじきを　キウ／126ゑたを　ハイジン／127くたふれたを　ラウテキン／128こゝろを　チロ／129かうろをヒヤンロ／130雪隠を　チンリヤウ

4.5．文化度（1811年）及びそれ以降

№17『文化八年羊年五月中旬朝鮮人来聘人数』（写本，作者未詳）

1銭ヲ　トン／2壱ヲ　ハナ／3弐ヲ　ソヲイ／4三ヲ　トヲイ／5四ヲ　コイ／6五ヲ　タソウ／7六ヲ　ヤソウ／8七ヲ　チリクイ／9八ヲ　ヤトロ／10九ヲ　カホウ／11十ヲ　エヒ／12招

指ヲ　シヤン／13休事ヲ　ホウルイ／14女房ヲ　オマン／15足帋ヲ　ヒヤシク／16礼儀ヲ　アランチヤン　コマミソ／17男ヲ　アトリ／18女ヲ　スタリ／19物くれいヲ　セイモンバラ／20煙草ヲ　タバ／21無キ事ヲ　アサラ／22みそヲ　センバン　ウヰウヰ／23誉（？）ルヲ　チヨシコ／24鮑ヲ　ハンヒ／25火ヲ　ブリ／26酒ヲ　スリ／27物やるヲ　むくれ／28飯ヲ　ハン／29半分ヲ　ハンサン／30塩ヲ　ソコム／31炭ヲ　スキ／32扇子ヲ　ネイ／33ほれたをクカ（ワ？）／34間敷ヲ　ヨカヨカ／35人の項ヲ　モカネ／36物持ヲ　カチオナラ／37出火ヲ　フリブタ／38餅ヲ　テキ／39菜ヲ　タア／40あほうヲ　ハサキサル／41米ヲ　サル／42着物ヲ　セイミン／43筆ヲ　チ／44矢立ヲ　ベリ／45白帋ヲ　ヘイキ／46帯ヲ　テイ／47木葉ヲ　シヤタナミ／48髪曲ヲ　シヤンテイ／49人々達ヲ　ナイ／50船ヲ　セン／51船短ヲ　タツ／52寝ルヲ　スフバル／53傘ヲ　雨車（ウシヤ）／54久敷逢ぬヲ　ホウフリ／55悪事ヲ　テモンセイ／56御礼申ヲ　ヲシミヤニコワマケソ／57歯ヲ　イク／58鼻ヲ　クワイ／59口ヲ　エヒ／60髭ヲ　シユエン／61耳ヲ　ソエ／62目ヲ　ヌン

№18『三韓平治往来』（刊本，文政8年（1825）刊，十返舎一九作・序）

1天（はのる）／2地（すたぐ）／3日（いる）／4月（おる）／5星（べる）／6雲（くるむ）／7風（ばらん）／8雨（び）／9雪（ぬん）／10霜（そる）／11露（をる）／12雷（はのるうんた）／13氷（をろん）／14山（もゑ）／15坂（こかい）／16海（はたく）／17川（かぐ）／18波（こる）／19水（ぶる）／20火（ふる）／21土（ふる）／22木（なん）／23草（そ）／24松（そなん）／25竹（たい）／26梅（ばいはい）／27菊（くく）／28葱（ば）／29人参（いんそん）／30煙草（たんばこ）／31麦（ほり）／32米（ひさる）／33大豆（こぐ）／34小豆（ぱつ）／35飯（ばい）／36酒（すゐ）／37塩（そくむ）／38醤（ちやぎ）／39薬（やく）／40寺（でる）／41舩（ばい）／42家（ちぶ）／43筵（ざり）／44升（しうてい）／45墨（ぼく）／46筆（ぶつ）／47杖（るひたい）／48扇子（ぶつそい）／49笠（うさん）／50弓（はり）／51矢（はるさい）／52茶碗（ちゆぐばり？）／53銀（うん）／54紙（ちよほい）／55仏（ぶつて）／56酒盃（ざん）／57僧（ちゆぐ）／58士（ぼはん）／59農夫（ばくせぎ）／60男（なんぞう）／61女（かんなへ）／62君（くん）／63臣（ちよぐのん）／64父（あばみ）／65母（おゆみ）／66親（おばい）／67子（あとる）／68兄弟（べきあし）／69商人（ちやくそ）／70牛（しよ）／71馬（もる）／72犬（かい）／73虎（ほん）／74猫（こい）／75鶴（くははち）／76鷹（まい）／77雞（とるき）／78鳥鳩（とりいふち）／79魚（こき）／80鯉（りがい）／81鮒（ぶかい？）／82海鰛（めちこぎ）／83鯛（とん）／84大口魚（たいこ）／85蛇（さんむすひ）／86蚊（ほる）／87衣服（をす）／88紗綾（おしちり？）／89綸子（すぐ）／90紬（めぐじゆ）／91糸（しる）／92木綿（むめぐ）／93綿（めぐす）／94灯（とぐ）／95湯（とをんぶる）／96一（はんな）／97二（とをる）／98三（そい）／99四（どい）／100五（たそ）／101六（よそ）／102七（じるとふ）／103八（よとろく）／104九（あばふ）／105十（ゑる）／106百（いるばく）／107千（いるてん）／108万（いるまん）